



CHATERED IN
NOVEMBER 21, 1955

THE SERVICE CLUB OF YMCA
THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S

2017年1月

札幌クラブ

THE Y'S MEN'S CLUB OF SAPPORO

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
〒064-0811
011(561)5217

IBC, DBC 国際兄弟クラブ・国内兄弟クラブ

— 主 題 —

国際会長 「Our future Begins Today」
アジア会長 「Respect Y's Movement」
東日本区理事 「明日に向かって 今日働こう」
北海道部部长 「視点を変えて見てみよう」
札幌クラブ会長 「親しくそして語り合う例会を」

Joan Wilson (カナダ)
Tung Ming Hsiao (台湾)
利根川 恵子 (川越)
山本 雅之 (十勝)
宮崎 善昭 (札幌)

札幌クラブ役員
会長 宮崎 善昭
副会長 伏木 康
書記 中田 千鶴
会計 秋葉 聡志
直前会長 宮崎 善昭

今月の聖句

あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、逃れる道も備えて下さるのである。 コリントの信徒への手紙 一 10章13節

あけまして おめでとうございます



「女性専用車両」

秋葉 聡志

今年の北海道の冬は、雪が早かった。12月の三連休には、夏の台風被害から復旧したばかりのJRが記録的な大雪で運休し、帯広出張から帰る足を奪われた。幸いバスに振り替えることができ事なきを得たが、千歳空港では3日間も足止めを食った人が空港にあふれ、中国人観光客100人が我慢できずに飛行機を飛ばせと駄々をこねて騒動にもなった。

さて、札幌市郊外の一軒家から、職場にほど近い街中の地下鉄沿線のマンションに引っ越して、早、1年2ヶ月が経った。引越の理由はいろいろあったが、その一つは一軒家の除雪の大変さである。老いゆく未来を考えての決断でもあった。おかげで大雪の日でも出かけさえしなければ至極快適である。おお、これぞ都会のマンションライフ！ これまでは、通勤にも遊びにも車が必要だったが、職場に自転車を通える距離になり、夏場は極力自転車で通い、冬場は地下鉄通勤となった。

ある日の通勤途中、地下鉄駅の改札へ通じるエレベーターを降り、改札口あたりまで来ると、ホームに電車が入っていて、人が乗り降りしているのが見えた。大急ぎで改札を通り、一番近くの最後尾の車両に飛び乗った。「ふう、間に合った。ラッキー！」と安堵した。通勤に使っているのはわずかに二駅の区間である。吊革につかまって、車内の広告を見まわしたり、乗客の様子を観察す

る。ほとんどの人がスマホをいじっている。

一駅過ぎた頃、どうも社内の様子がおかしいことに気がついた。見まわしたところ、だれも男がいないのである。「しまった！ これがうわさの女性専用車両か」と気づいた時には後の祭りである。どっと背中に汗があふれる。急に周りの女性の視線が突き刺さるように感じる。

「間違えちゃったなあ」と聞こえよがしに言い訳するのもおかしい。あと一駅、最後まで女性専用車両とは知らずに乗り込んでしまった男性を演じ切るしかない、気づいてしまった動揺を表に出さないようにする。と同時に頭の中では、自分の不注意を棚に上げ、女性専用車両の是非について押し問答が始まる。

「そもそも、女性専用車両なんて必要なか？ それもこの時間だけ」「知らない人は間違えて乗るに決まっている、まったく」「でも、この混雑を利用する不埒な男がいるからこんな車両が必要になるんだよな」「やっぱり、男が悪いのか…」

そうこうするうちに、地下鉄は目的の駅に着き、さも通勤を急ぐかのように、そそくさとその車両を降りたのである。女の世界から解放されたが、「不埒な男はおまえだよ」という無言の視線がいくつも背中に突き刺さっていた。とほほ…

男性諸氏、くれぐれもご注意を。



2017年1月例会
出席報告

在籍会員	11名	例会出席	6名	メネット	2名	メーキアッ	2名
ゲスト	4名	ビジター	0名	計	14名	出席率	55%

札幌ワイズメンズクラブクラブ
札幌北ワイズメンズクラブクラブ
2017年1月例会合同例会

日時 2015年1月12日(月) 18:00~21:00
会場 東京ドームホテル札幌2F [サビオ]
札幌市中央区大通西8丁目
会費 6,000円

プログラム

- 司会 秋葉 聡志
- ① 開会点鐘 札幌クラブ会長 伏木 康
- ② ワイズソング・ワイズの信条 全員
- ③ 聖句
- ④ 開会挨拶 札幌クラブ会長 宮崎 善昭
北海道部部長公式訪問
- ⑤ 北海道部報告 北海道部部長 山本 雅之
- ⑥ 誕生・結婚記念日祝い

両クラブとも2月例会で。

⑦ 卓話

⑧ 「いのちの電話」

「命の電話」事務局 杉本 明



⑨ 祝宴

乾杯 北見クラブ会長 二本松 能敬

⑩ 「私の今年の漢字」 全員

今年のモットーとする漢字。

その理由を一人2分で。

⑪ ビンゴ



⑫ YMCA報告

札幌北クラブ担当主事 工藤 啓司

札幌クラブ担当主事 佐藤 雅一

⑬ みんなで歌おう

札幌北クラブ 「春よ恋」

札幌クラブ 「雪の降る街を」

⑭ 閉会挨拶 札幌北クラブ会長 高杉 純一

12月焼き肉例会

日時：2016年12月20日(火) 19:00~21:00
場所：「北海道焼き肉プライム」

中央区北4西5 アスティ45ビル1階
出席者： 秋葉、川上、佐藤、柴田、宮崎、柳沼
メネット 秋葉M、柴田M、
ゲスト 植田、田巻、中上

12月例会は、焼肉を食べながらという企画で、12月20日アスティ45ビル「北海道焼肉プライム」で行いました。最もこの例会を所望していた中田千鶴メンが所要の為欠席だったのが残念でしたが、担当主事、リーダーOB3名(植田さん、田巻さん、中上さん)、伏木コメント、秋葉メネット、柴田メネットを加え、総勢14名が集まりました。また、ブリテン担当の中田靖泰メンからブリテンと「みんなで歌おう」の歌詞カードが届き盛り上がりましたが、会場が個室でなかったため、周りの迷惑を考えて歌は歌いませんでした。2月例会で歌うのもいいんじゃないかと思えます。

リーダーOBの参加がありましたがいずれも今年度、一昨年度ワイズ・チミケップワークと共に汗を流した仲間で、田巻さんは、チミケップキャンプのキッチンでは今や伝説的なキッチンディレクターで、この人がいなかったらいくら頑張ってもキャンプはできません。

会長の乾杯の音頭で焼肉が始まりました。オープン席でしたのでいつもの例会セレモニーは割愛し、其々近くの席の人たちと歓談に入りました。私の席は丁度リーダーOBの席に近かったのでチミケップキャンプの話に花が咲き、もっとチミケップキャンプを広報する方法はないかということでドローン飛ばして動画を撮影してネットなどのアップする方法などアイデアが出ました。ドローン撮影は京都ウエストクラブのメンバーにプロ級の人がいるのでその人に頼んではどうか、もっと身近にそういう人はいないのかなど具体的な話も出ていましたが、いずれにしても、北海道の大自然の中にあるチミケップキャンプ場の春夏秋冬を空中撮影の映像で見たいという欲求は大きいですね。

食べ放題ではありませんでしたが、飲み放題のコースで、少し前までは楽勝で飲み・食いとも元を取っていましたが、最近は寄る年波に勝てず、途中でエネルギー切れのケースが多くなりました。

久々に趣向の異なる例会も気分が変わっていいものだなと思いました。みんながいい気分になってツルツル路面に酔いも醒めつつ家路につきました。

(参加者全員が食べるのに夢中で、写真撮った会員は一人もいなかったとのことです。)



何故この聖句を！

この世は不合理と苦難に満ち満ちています。シリア、南スーダン、……。足元の自分の国でも東北、熊本。糸魚川でも一夜にしてすべてを失って正月を迎えている人たちがいます。「神も仏もないのか」と思う時、この聖句が浮かぶ人は幸せです。

ブルキナファソから明けましておめでとう!

アフリカ在住のワイスマン 小野 健

ワイズの皆様、新年あけましておめでとうございます。この2年ほど、ほとんど日本におらず、アフリカ（ブルキナファソとエチオピア）での仕事に追われている、幽霊部員の小野です。

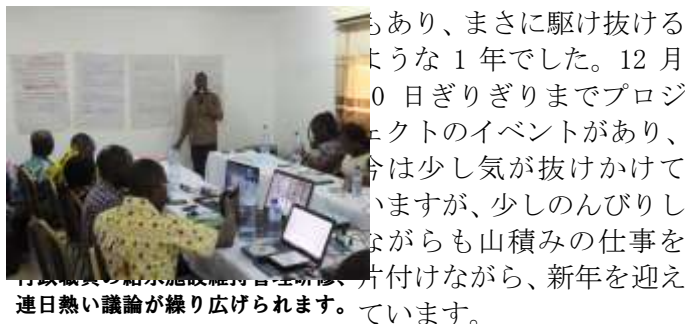
今回は2006年のチャド以来、10年ぶりに家族と別々に異国の地での年末年始を迎えています。ちなみにわが妻と子供たちは、マダガスカルの実家で、暑い暑いと言いつつも（向こうは南半球なので季節は真夏で連日40℃を超えているそうです!）、マダガスカルでのクリスマスとお正月を満喫しています。連日海水浴、プール、近所の子供たちと駆け回り、真っ黒に日焼けしながら疲れ知らずで遊んでいます。



コミュニン（地方自治体）の市長などを集めて開催した給水施設維持管理セミナー。超満員です。前列左端が私。一人挟んで右側の女性は州知事です。

この原稿は大晦日の午前中にホテルの自室で書いているのですが、外を出ると町は年越し準備の買い物客で溢れ、街行く人たちは浮かれて、かなりのハイテンションです。ブルキナファソは日本と違い、元旦と1月3日の人民蜂起の日の祝日以外は基本的には普通に働くのですが、今年は週末と重なることから、4日間のちょっと長いお休みとなっています。ただ、年末のマリ国境の軍キャンプへのイスラム過激派による大規模な襲撃事件があり（日本では殆ど報道されていないようですが、こちらでは1月15日のワガドゥグ中心部のテロ事件に続いて非常に衝撃的な事件でした）、そのため花火や爆竹の禁止、市内外の厳しい検問など、例年とは違う雰囲気も漂っています。

2015年9月に始まった今のプロジェクトは、早くももう少しで折り返し地点、プロジェクトのスタート時点から、クーデターや新政権の発足など色々あり、2016年はイスラム過激派による衝撃的なワガドゥグ中心部でのテロ事件で幕を開け、国内の様々な障害にも関わらず、多くの研修やセミナーなどのイベントをこなし、さらに成り行きで関わっている別プロジェクトの仕事



行政職員と給水施設維持管理研修。片付けながら、新年を迎え連日熱い議論が繰り広げられます。

プロジェクトが目指している持続的な給水施設の維持管理や、トイレや手洗いなどの衛生意識の改善は、井戸や水道施設の建設などとは違い、目に見える成果はなかなか現れず、本当に地道な取り組みが必要です。プロジェクトを開始した当初は、井戸やトイレを作らないプロジェクトはいい、とコミュニン市長から言われたこともありましたが、2009年のフェーズ1から足掛け7年、やっと政府や自治体関係者の意識も少しずつ



ポンプ修理工への研修でポンプを引き揚げて故障している箇所を確認している様子。水汲みは主に女性の仕事なので、見守る村の女性たちの目も真剣です。



ですが変わり始め、村の住民たちの間にもポンプを長く使うためには自分たちでお金を集めてきちんと使えるようにしなければならないという考えも浸透してきています（まだまだですが）。この

7月の日本での研修で東川町の幼児と戯れるプロジェクトコーディネーターのジャン氏。この写真は彼のお気に入りです。ちなみに彼はこの11月に結婚したばかりの新婚さんです。

秋からプロジェクト専任のコーディネーターも任命されました。年明けからはいよいよ維持管理に関する国の政策づくりにも着手することになっています。越えなければなら

ないハードルは依然と高く、落ち込むことも多く、目指す先は遥かに遠いですが、彼との二人三脚でプロジェクトが成功するよう、頑張っている毎日です。



衛生セミナーでポンプのすぐそばで豚がゴロゴロしている写真を見せているプロジェクトのカウンターパート。写真やイラストを使って住民が自分たちで考えて改善のための答えを探そう工夫をしています。

というのが今の私の毎日です。ハードワークにも関わらず病氣一つしない私の頑丈さに感謝です。2017年が皆

さんにとって幸ある年になりますよう、心からお祈りしています。それでは帰国時にまたお目にかかれるのを楽しみにしています。



村でのポンプ維持管理について話し合う集会の様子

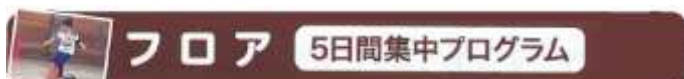
小野健君は学生時代 JICA、卒業後もアーシアンドヒューマン者に入社、アフリカの水利・衛生・福利事業一筋に活躍しています。

YMCA ニュース

担当主事 佐藤 雅一

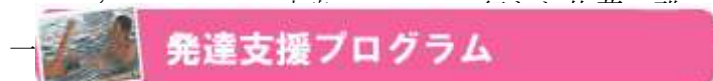
① 冬期特別プログラム

12月23日ー1月16日まで冬期特別プログラムが行われます。全道では1,800名近い子供達がスキーを始め、水泳・体操・ウインタースクールなど様々プログラムに参加します。今年は全般的に募集が順調に進み、予算人数を超えることができました。



YMCAからもスタッフが参加します。

▼・全国YMCA日本語教育担当者会



1/24 東京の在日本韓国YMCAで行われ工藤 啓司ディレクターが参加します。この会議には、チャリティーラン大会長の有森さんも参加されます。

・▼東日本地区YMCAスタッフ研修会

1/25ー26 東山荘で行われ、ウエルネスセンターの稲船 裕介さんと秋葉総主事が参加します。

・チャイルドケア担当者会 アフタースクール部会

▼1/28ー29 東京の在日本韓国YMCAで行われ札幌でアフタースクールの担当をしている先本 充志さんが参加します。

・国際事業担当者会

▼¥¥1/30ー31 東京の在日本韓国YMCAで行われ佐藤 雅一ディレクターが参加します。

③ ピンクシャツデー

「いじめのない社会をめざします。」

YMCAは「ピンクシャツデー」に取り組んでいます。社会全体がいじめの被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者」にならないことが、いじめられている子どもを救うことになる…と私たちは考えます。公平で平和な世界の実現をめざすために、私たちはその第一歩を踏みだします。

それをきっかけに、いじめの問題について一緒に考えませんか？



2007年、カナダの学生2人から始まったいじめ反対運動です。ある日、ピンクの服を着て登校した少年が「女みたいだ…」といじめられました。それを見た先輩2人が50枚のピンクシャツを友人に配り、翌日登校をします。学校では呼びかけに賛同した多くの生徒がピンクのシャツを着て登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなったそうです。このエピソードがSNS等で世界中に広まり、今では70カ国以上でいじめに反対する活動が行われています。カナダで最初にこの出来事があった日が2月の第4水曜日でした。それ以降、2月の第4水曜日に私たちもいじめを考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日としています。

良いクリスマス、良い年をお迎え下さい。



ワイスの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう。
2. 青少年のためにYMCAに尽くそう。
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかろう。
4. 義務を果たしてこそ、
権利が生ずることを悟ろう。
5. 会合には出席治一、
社会には奉仕第一を旨としよう。